

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家(しらゆり棟)		
所在地	岩手県奥州市江刺区田原字大日195番地1		
自己評価作成日	平成23年8月17日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371200387&SCD=320&PCD=03>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者に温泉気分を味わってもらうため、温泉のお湯を直送して、そのお湯を使った入浴サービスを提供しています。○広い敷地を利用して、入居者と職員が共に作業できる畑を用意して、作物を作っています。○地域との交流行事として、8月10日に地域の方を招待して、水沢の花火大会を見物しながらの夏祭りを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眺望のよい丘にある2ユニット型のグループホームである。綺麗にデザインされた広い庭と畑があり、リビングを中心とした室内は余裕のある生活空間を創り出している。2つのユニットの風呂は、月・水・金曜日に千貫石温泉からお湯を運んでおり、温泉入浴も利用者の楽しみになっている。また広いホールを利用して運動会が催され、さくら棟としらゆり棟の対抗で行われた、楽しい写真が展示されていた。利用者の皆さんが休むことなく会話を楽しまれている姿が印象的であった。ホーム内の雰囲気は明るく、利用者の動きに職員が自然に関わりあっている様子が感じられた。職員の向上心は高く、期待する内容についてもしっかりと理解している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を策定し、ホーム内に掲示している。「笑顔で」「楽しく」「穏やかに」という介護の実践のためミーティング、職員間連絡ノート等活用している。	法人としての理念を踏まえた上で、事業所独自の理念を策定して玄関に掲示してある。理念は「笑顔」「和」「支え合い」である。グループホームの理念は、毎年職員が相談し、決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、自治会行事等に積極的に参加している。	地域とは、自治会に加入したり、地区運動会を見学したりし、地区清掃に参加し関わりを持っている。事業所主催の夏祭りの時に、利用者家族や、地域の方々に来てもらっている。保育園の子供の散歩コースになっており、子供達と楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、振興会主催に介護教室に協力する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の様子等を撮影し、運営推進会議で見せて、意見を聞き、サービス向上に努めている。	運営推進会議(13:30~15:30)で夏祭りのビデオを觀てもらい、様々な感想を頂いている。田原地区の文化祭に「ぬり絵」を出品したらどうかや、地元利用者を増やすためにPRをしたらどうか、という意見も出していただいている。	運営推進会議のメンバーに、地元の消防団や警察等の参加をお願いすることにより、防災や防犯等についても多くの意見が聞かれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として市の担当者も来所され、市とともにサービスの向上に努めている。	運営推進委員には奥州市の長寿社会課職員・包括支援センター職員も参加し、積極的に連携を図ろうとしている。行政の参加で避難訓練を行い、夜間想定避難訓練を勧められ、実施を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為並びにやむを得ず拘束をしなければならない場合の3原則を施設内に掲示し、代表者・職員が理解を深めている。	(身体拘束)3原則を掲示し、代表者・職員が理解を深めていることを確認した。身体拘束は行っていない。 玄関は24時間施錠する事はなく、庭にいつでも気軽にでられる環境となっていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する資料をホーム内に掲示し理解を深めるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、日常生活自立支援事業を利用した入居者もいらしたが、現在は利用はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、家族と時間を取って面談を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し、広く意見・要望を聞くことの出来るようにしている。	目安箱を設置しているが、特に要望や意見は入っていない。	種々の項目を検討して、家族へ満足度調査(アンケート実施等)をし、様々な意見の集約を行うことを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・職員でのミーティングを定期的開催している。	ミーティングは月1回程行っている。業務上の様々な課題(休憩時間の確保)を話し合い、よりよい体制作り等を模索している。	やりがいを持ち、一生懸命あたっているが、(一人だけになる)休憩時間を適宜取れるように工夫してみようことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員でのミーティングを定期的開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修部会を立ち上げ、計画的に法人内研修が出来るようにしている。また、外部研修に関しても参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の会員であり、岩手県や、奥州ブロックの定例会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定会議後、入居内定者のご自宅を訪問し、本人と面談して、本人ニーズを把握できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定会議後、入居内定者のご自宅を訪問し家族と面談して、家族のニーズを把握できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅を訪問し、本人・家族との面談を通して、ご自宅にいた際一番に困っていることを共有できるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者がホーム内で何らかの役割を持って生活できるよう、本人と職員が話し合うことで関係を気づいていけるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が、入居者のケアに関して、職員と気軽に話し合うことが出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人等の面会を通して、親類のつながりを保つ事が出来るよう支援している。	家族・親戚・友人等の面会を通して、人間関係を継続的に保つように支援している。 訪問は頻繁に来てくださる方から、年に数回の方など多様である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの際、なじみの関係を配慮し席順等を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった場合も、家族の意向を聞いた上で、サービスの継続がはかられるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食器拭きの手伝いや、畑の草取り等、やりたいこと・希望を本人から聞いたうえで、本人の能力も勘案し、役割を決めている。	畑にナス・スイカ・ミニトマト・キュウリを植え、収穫をしたり、食器拭きや片付けの担当を決めて行われていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居判定会議後の在宅訪問時、ご自宅での状況家族から聴取したり、家の状況を見たりして現状を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表の中に個人の行動特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の立案に関しては、職員相互に話し合い立案するように心掛けているが、本人・家族を交えた担当者会議形式での議論できる環境は作られていない。	3ヶ月・6ヶ月または変更の時に介護計画を立案している。「認知症対応型共同生活介護サービス計画書」を作成して、家族の意向を聞き、それを活かすようにしており、確認・署名を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するに当たり、気づいたことを、気づきノートを用いて職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	精神的に不安定状態に陥る利用者に関しては、出来る限りマンツーマンで対応するよう配慮している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 花の家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域における社会資源に関しては、職員の理解が低い面があり、今後の研修等実施していきたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の医療に関して話し合っている。特段の希望がない場合はホームの協力医療機関利用頂いている。	平田医院(内科・外科)、関谷医院(内科)、関根歯科を利用している。定期受診と適宜の受診をしている。定期受診は家族の対応で、バイタルや体重・普段の様子を家族に伝えて受診出来るようにしている。また薬だけを処方してもらう時は職員が対応している。体重は月1回測定している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職の勤務はないが、併設事業所の看護師と連携し、利用者の体調管理を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に緊急受診、入院した場合、介護サマリーを医療機関に提示している。また、退院の際は、看護サマリーの提出を求め、スムーズにホームに戻ってこられるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いをして、GHで出来ること(本人が出来ること)を明確にして、家族に説明して、チームで支援に取り組む。	家族と話し合いを持ち、出来るだけ希望に添えるよう対応している。	終末期について、家族に指針を示し、文書化(承諾書)することの検討を期待したい。早い段階から(本人・家族の)希望を確認し、対応について段階を経て話し合いを重ねることが大切と思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限のマニュアルは作成しているが、ホーム内での実践的訓練は不十分であり今後、実施して行きたいと思う。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画は作成しているが、入居者の安全を確保するための具体的な方法に関しては検討を深めていく必要がある。また、地域との連携に関しては、行政区長、自治会長と協議していく。	スプリンクラーや緊急通報装置が設置されていた。(夜勤は2ユニット1名ずつで2名体制である。)	特に夜間に地域の協力を得られるように日頃から協議しておくこと等を期待したい。避難場所をあらかじめ家族に教えておくことが重要と思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には特に注意して取り扱っている。また声かけについては、命令口調・子供口調のような言葉は使用せず、わかりやすい言葉でゆっくりと声かけしている。	分かりやすい言葉でゆっくりと声かけしている。 穏やかな雰囲気を感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を職員からの問いかけによって表出できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が一日の業務の流れを重視するあまり、時として職員の都合を優先させることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方で、ネイルケアする方や、パーマを希望する人等に対して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の夕食と、月曜日の朝食を「お楽しみ献立」として、利用者と職員が献立を決めて、一緒に買い物へ行き、食事・片付けをしている。	日・月曜日、利用者と買物をし、利用者の「お楽しみ献立日誌」を確認した。職員が利用者と一緒に献立を決め、買い物へ行き、食事・片付けをしていることがわかりやすく記入されている。利用者2名と職員2名で出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を立て、毎月栄養分析をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、口腔体操を実施している。食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握の為、個々の利用者ごとに排泄チェック表をつけている。	便秘の時には、漢方薬を飲んでいただいている。利用者ごとの「排泄記録」を確認したが、個々の排泄パターンをよく把握している様子がうかがえた。また、トイレ誘導や見守り介助も日々適切に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動量を確保できるように、施設外を散歩やレクリエーションを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、原則個人の希望を聞いて入浴回数を決めている。時間帯に関しては業務の流れの中で職員が決めている。	「認知症対応型共同生活介護実施記録〇年〇月」に入浴記録がある。入浴順や、毎日入浴の希望は聞いている。入浴拒否の利用者にも声かけの工夫等により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳を利用し、足を伸ばして、又は横になったり、ソファの良い人は、ソファで休憩される。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人チャートに綴り、職員はそれを見て確認している。与薬に関しては、確認表を作成し誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物干しなど、入居者の得意とする日々の役割を設けている。また、ホーム敷地にある畑仕事を積極的に行ってきている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は、近隣にドライブしたり、戸外の散歩をしたりしている。また、帰宅願望を訴える入居者とドライブに出かけたり、お好み献立の買い物を利用者と出かけたりとしている。	毎日のように敷地内を大よそ15分ぐらい散歩している。ドライブを月1回位行っている。足のむくみを防ぐため、畳に座ったり、昼寝をして頂いたりして様子を見ている。盆・正月の帰宅を積極的にすすめている。(今夏は5名外泊し、外出の方もいた。)	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は、利用者個人での金銭所持はなく、ホームで小口現金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に会いたいとか、家に帰りたい、電話をかけてと訴えられるとき、電話をかけて話される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花見や、バスハイクのスナップ写真を大きく引き伸ばし、貼り出している。自分が写っていると、指を指して喜ばれています。花や、コメントを入れた写真を貼っている	両ユニットとも、とても広いリビングがあり、テーブル・ソファ・リハビリ器具等が配置されている。運動会のコメントを入れたスナップ写真が数多く貼られており、日々の活き活きとした生活ぶりが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者と何人かで集まれる場所、一人で景色を見たりする場所、畳の上で、足を伸ばしたり、横になられたり、リラックスされる場所など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。	利用者には馴染みのものの持ち込みが認められており、位牌などを置かれている方もいる。お部屋は整理整頓がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中に日にちや曜日を明確にしてメリハリをつけています。居室の前に大きく名前を表札にされたり、トイレに「便所」と書いて入られています。		